

みんなのひろば



▲所沢市の姉妹都市・ディケイター市（アメリカ）から来日した高校生6人が弓道を体験した「海外都市学生交流事業」。的を目標けて弓を射る真剣なまなざしが印象的です。
8月5日(木)／弓道場（西新井町）

▼エコで夏休み講座「新聞紙で花のブローチとエコバック作り」が開催されました。新聞紙から素敵なブローチが出来上がりました。
8月4日(木)／リサイクルふれあい館エコロ



▲早稲田大学高等学院水球部のお兄さん、お姉さんと遊びながら取り組んだ、「夏休み水球チャレンジプログラム」。子どもたちは水しぶきを上げながら、ボールを懸命に追いかけてました。
8月8日(日)／泉小学校（撮影：市民カメラマン・村田ひろこ）



▼子どもたちが命の大切さを学び、助け合いの心を育むために「少年少女消防体験入隊」が行われました。小学生約90人が、ロープ渡り訓練やはしご車の搭乗に果敢にチャレンジしました。
7月28日(日)／消防本部
（撮影：市民カメラマン・塩野入好文）



目指せ 低炭素化! 温暖化をとめよう



ところバスに乗ってみよう!

「ストップ温暖化」デザインのところバスを見かけたことはありますか？今月から新たなデザインが加わります。温暖化防止のためマイカーの利用を控え、歩いたり、自転車に乗ったり、またところバスや路線バス・電車をご利用ください！

◆「ストップ温暖化」ところバス

今年で3年目、4作品目となります。1年目が「うさぎ」（8月まで運行）と「エコマン」、2年目が「地球と握手」、今年が「エコして地球」のデザインです。今年のデザインは、埼玉県立芸術総合高等学校2年生萩原可奈さんの作品です。地球温暖化防止を呼びかけるすばらしいデザインとなっています。



◆マイカーからの温室効果ガスは依然多い!

日本の自動車などの運輸部門から排出される温室効果ガス排出量は、2001年までは乗用車の需要が伸びたことなどにより増加傾向にありましたが、その後は燃費の改善などにより減少傾向が続いています。しかし、自家用乗用車に限ると排出量は大幅に増加（1990年比35.6%増）しています。

また、1km移動する際に排出される1人当たりのCO₂は、自家用乗用車が191.3g排出するのに、バスは45.4g、電車は17.3gです。もちろん、歩いて移動すれば0gです。過度のマイカー利用は控え、歩いたり、自転車や公共交通機関を利用しましょう！

◆毎月22日はところバス100円!

「エコ・モビリティの日」の毎月22日は、ところバスの運賃が一律100円となります。ところバスで出かけてみませんか？

所沢市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています
問い合わせ 環境総務課 2998-9133 2998-9394



はっぴー 野老っ子



「コバトン（埼玉県）」や「ひこにゃん（彦根市）」など、たくさんの自治体のマスコットが大活躍している今、所沢市にもついにオリジナルのマスコットが誕生しました！

市制施行60周年を記念したマスコットデザインへの募集には、全国から196もの作品が集まりました。今回は、その応募作品の中から、みごと最優秀作品に選ばれたデザインの作者、竹浪かおるさんをご紹介します。

小さいころから絵を描くのが好きだった竹浪さんは、ゲーム会社でゲームのロゴデザインなどをする仕事に携わってきました。独立した現在は、イラストレーターとして活躍されています。そんな竹浪さんは、今回の募集を知り「自分の得意なイラストで地元・所沢に少しでも貢献ができるのなら、こんなにうれしいことはない」と、応募を決めました。

マスコットのデザインは「航空発祥の地らしく、市の鳥「ひばり」にプロペラ飛行機のイメージを盛り込みデザインしました」とのことです。20種類以上も思い浮かんだアイデアの中からこのマスコットにたどり着きました。「未来にはばたく、誰からも愛され親しまれ

マスコットへ託す夢

竹浪 かおるさん(元町在住)

るようなマスコットを作りたい。所沢らしさを取り入れたいうえで、一目で皆さんにかわいらしいと感じてもらえる様にと考えました」とアイデアの秘けつをこっそり教えてくれました。その意図が伝わったのでしょうか、竹浪さんの作品は審査の過程で行われた、小・中学生、高校生の投票で高い評価を得ました。「自分がこのマスコットを通して伝えたいことが伝わったのかな。いまだに夢じゃないかな？と思うくらい信じられない気持ちでいっぱいです」と喜びを語ってくれました。

「自分で生み出したマスコットがいろいろなところで活躍してくれることが私の夢。未永く市民の皆さんに親しまれ、所沢への愛着をさらに深める存在として活躍してほしい」と竹浪さんは願っています。

竹浪さんが、愛情と期待をたっぷり込めたこのマスコットにぴったりの名前がついて、大活躍する日が今から待ち遠しいですね。

マスコットの愛称募集については、本号1頁をご覧ください。



▲マスコットのスケッチ画

ところざわ 歴史まめ知識

所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順に紹介しています。今号は「お」です。



お 大谷たんぼ 現在の松が丘地区にかつて広がっていた市内有数の水田地帯。田んぼだったころは、春にはレンゲの花が咲き、山際の小川にはタナゴやザリガニなどが生息し、子どもたちの格好の遊び場でもありました。住宅開発により昭和50年ごろなくなりしました。開発は昭和52年（1977）に始まり、平成5年に町名整備により大字久米から松が丘一丁目～二丁目となりました。

▲大谷たんぼ（昭和50年）

お 大矢栄吉 幕末から明治にかけて活躍した将棋の棋士。所沢新田（所沢新町）の医者の子に生まれ、幼少から将棋の腕を磨きました。江戸で活躍した所沢出身の棋士・福泉藤吉の墓前で故人に入門を誓い、幼名の久次郎を東吉に改めました。そのため福泉とともに「二人のとうきち」と呼ばれます。慶応4年（1868）には全国規模の番付で西小結に格付けされました。その後、将棋の宗家の一つである伊藤家八代目宗印、尾野（のちに小野）五平とともに「明治の三強」と呼ばれました。

お 押絵羽子板 役者絵や美人図などの図柄を、布と紙で切り抜いて細工し、中に綿をくるみ込んでつくる「押絵」をはり付けた羽子板のことです。所沢は、春日部や岩槻とともに埼玉県内有数の押絵羽子板の産地として知られています。その歴史は江戸時代半ばに始まったと伝えられ、明治時代初期の地誌にも、地域の村で生産されていたことが記されています。今日のような地場産業に発展させたのは上安松の武藤力蔵（1886-1942）でした。所沢周辺の押絵職人の多くが武藤家の系譜を引いています。

問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究 2991-0308 2991-0309

ぼへつ 野球 上野 田中舜也
今、ぼくは小指指ファイターズで野球をしています。この前の大会では、準決勝で負けてしまい、くやしくすく泣きました。自分の夢であった西武ドームで試合ができなくなったら、もっとも練習をして、6年生になったら、左右に打てるような選手になり、今年の分までがんばって優勝したいです。
ぼくは将来、ライオンズの中島選手やマリナーズのイチロー選手みたいなすごい選手になれるように、これからもがんばって野球を続けます。



誰でも エッセイ 北有楽町 加納知明
暑い季節は西武ドームに行くのが楽しみです。ゆったりとした内野席で、ビール片手に友人と談笑しながらのんびり野球談義をしている。狭小丘陵の心地よい風がとても気持ちいい。
もう20年も前だろうか、父に連れられてスタジアムに来たときは、ホームランに目を輝かせ、華麗な守備に憧れ、いつかは自分もあの舞台上に立ちたいと思っていた。学生時代は野球もしていたが、ここ数年はバッテリーセンターのボールすら当たらない始末。子どものころの憧れとは裏腹に、現実とはなかなかうまくいかない。

